

平成29年度農業技術情報（花き—6月）

今月は、梅雨入りとなります。この時期は、豪雨なども予想されますので万全な技術対策を講じてください。降雨後は病害が発生しやすくなりますので、必ず薬剤散布による防除を行ってください。年によっては、空梅雨となり好天続きで、害虫の発生も多くなることもあり、日頃の観察を怠らず適期作業による高品質生産を心がけてください。また、この時期は真夏のような気温が続くことがあり、降雨の少ない日が多い場合は圃場に灌水するなど臨機応変に対応してください。

【露地ギク】

◆摘芯した株から3～6本のわき芽が伸びていますので、そのわき芽が3本となるように整枝します。勢いが強い枝や弱い枝を付け根からかき取り、平均的な枝を残すのがポイントです。定植が遅れたところや側枝の伸びが悪い圃場では、液肥や灌水を積極的に行い、ボリュームアップと初期生育の確保に努めてください。

◆今月は、特に「白さび病」の発生に注意してください。地際の子葉を早めにかき取って通風を良くし、1週間間隔で薬剤散布を行います。散布は、予防剤を主体に発生を確認したら治療剤に切り替え、被害の拡大を防ぎます。また、ハモグリバエ、アブラムシ、ミドリカスミカメムシ、キクスイカミキリムシ等も発生する時期です。薬剤散布の際は殺虫剤も混用してください。薬剤散布は、できるだけ午前中の涼しい時間帯に行い、周囲の農作物への飛散防止に十分注意してください。

【トルコギキョウ(8月出荷作型)】

◆草丈が15～20cmになるとチップバーンや茎折れの発生が多くなります。これらの障害は、多肥栽培や軟弱な株ほど発生しやすいので、換気を図り、灌水過多にならないよう土壌水分管理に注意してください。チップバーンの発生が多い品種や、樹勢が強くなりすぎた場合は、定植後1ヶ月頃から出蕾期にかけてカルシウム質資材を10日間隔で3～4回散布し、予防してください。

◆出蕾後の主枝中心花の摘蕾は、蕾が小豆大になったら行ってください。摘蕾が遅れると蕾に栄養が取られ花蕾のバランスが悪くなるため、摘蕾の蕾の大きさが3cm以内の時期までに実施してください。

【リンドウ】

◆6月は、茎の曲りが発生しやすい時期なので、ネット上げはしっかりと行ってください。一番下のネットは草丈の半分の位置、最上段のネットは草丈の8割までの位置とし、2段目のネットが最上段と最下段のネットの中間の位置になるように調整します。ネット上げの際にネットから茎がはみ出る場合があるので、ネット上げが終わったら、はみ出た茎をネットの中に入れて込みます。この時、茎を折らないように注意してください。

◆病害では「葉枯病」に加え、6月下旬から「褐斑病」が発生します。「褐斑病」は、前年に発生した圃場では今年も確実に発生しますので、6月下旬～7月下旬までの時期にストロビーフロアブルと「葉枯病」同時防除できるダコニール1000を用いて防除してください。

【シンテツポウユリ】

◆梅雨期は「葉枯病」の発生が多くなる時期です。薬剤散布は新葉の展開速度に合わせて7～10日に1回としますが、降雨によって「葉枯病」の発生が助長されますので、降雨後は必ず散布してください。散布は株全体に薬剤が十分かかるよう行ってください。

◆ネットの引き上げ時期が遅れると、曲りの発生につながるのこまめに引上げを行ってください。

【ダリア】

◆生育が旺盛になる時期です。ネットを引き上げて曲がらないようにしてください。下段のネットは地面から20～30cmの位置まで上げたら固定し、上段のネットは生育に応じ適宜引き上げてください。

◆うどんこ病やダニ、スリップス、アブラムシなどの病害虫が多く発生する時期です。適期に薬剤散布を行ってください。

※詳細については、各JA営農センターや県地域振興局農業振興普及課にご相談ください。

お問い合わせは 営農支援部 営農支援課(加藤) 018-864-2462 へ



JA全農あきた

営農支援部
営農支援課

TEL018-864-2462